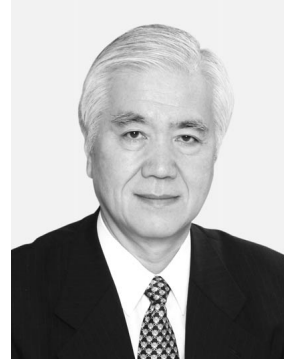


# お祝いの言葉

株式会社日本政策金融公庫  
国際協力銀行 (JBIC)  
[経営責任者]

渡辺 博史

Hiroshi Watanabe



海外投融資情報財団の設立20周年、誠におめでとうございます。

貴財団は、1991年の設立以来、海外投資にかかわるわが国企業に対して、日々変化を続ける世界の政治・経済情勢、市場動向、投資環境などについて、貴重な情報の提供を続けられてきました。また、近年では排出権取引プラットフォームの活用といった時代の要請に合わせた先駆的な取り組みも積極的に展開されるなど、その活動を通じてわが国企業の海外経済活動の成功に大きく貢献されていらっしゃいます。貴財団および歴代の関係者の方々のご尽力とその多大な成果に心からの敬意を表したいと思います。

1991年以降、わが国を取り巻く環境の変化は著しく、サプライ・チェーンの緊密化などのグローバル化の進展も相まって、わが国企業の海外投資に対する関心は日々高くなってきていると実感します。国際協力銀行が旧日本輸出入銀行の時代から毎年実施している「海外直接投資アンケート」の結果においても、91年度のアンケート対象企業全体の海外生産比率が約16%であるのに対して、2011年度では約32%と2倍近く増加しております。

今後も、日本政府によるパッケージ型インフラ輸出や海外での資源権益確保の推進を受け、また、発展途上国の経済成長に伴う市場の変化や日々激化する他国企業との競争への対応のため、海外展開を目指すわが国企業の裾野はますます拡大し、また、それぞれの企業の取り組み

もよりいっそう深化していくと考えられます。わが国が昨年3月に経験した未曾有の災害では、サプライ・チェーンを通じてのわが国企業と世界経済のつながりを再認識させられましたが、世界的な経済連携の進展は、わが国企業と世界の関係をさらに密接にしていくことが確実にです。

一方で、このようにグローバル化の進んだ今日の世界経済においては、2008年に発生したリーマン・ショック、2010年に端を発した欧州経済の混乱などが瞬時に全世界の金融資本市場および経済にさまざまな影響を与えるなど、わが国企業を取り巻く環境の不確実性はますます高まる傾向が顕著であることに加え、情報技術の革新もあり、経営判断に格段のスピードが要求されています。

こうした環境変化の結果、わが国企業にとって、企業の規模や海外展開の有無にかかわらず、その事業の成否を左右するひとつの要素として、さまざまな海外関連情報の重要性は従来以上に高くなっていくことは間違いなく、貴財団に対するわが国企業の期待がさらに高まるものと考えます。貴財団が設立以来蓄積された知見、重層的なネットワークをいっそう発揮され、これからも付加価値の高い情報提供を続けることを通じ、わが国企業やわが国経済の発展の一助となっていきたいと願っております。

最後に、貴財団のますますのご発展をお祈りして、私のご挨拶とさせていただきます。